

## 素晴らしい樹木に出逢えるのが楽しみ

「樹木医になったきっかけは？」と、よく聞かれますが、特にきっかけはありません。平成3年に樹木医という制度ができたというだけで、それまでは樹木医という肩書きを持った人がいたわけではないのです。

当時、林野庁が樹木を取り巻く環境変化に対応するために、樹齢500年とか1000年とか、年が経つにつれて弱っていく古木を「何とか守りたい」、「どうやって守ってもらうか」と悩んでいた時に、樹木医という資格をつかって、その試験



に合格した人たちに「木を守ってもらおう」と考えたんです。その結果できたのが「樹木医制度」なのです。ですから、樹木医になった“きっかけ”は、「樹木医制度ができたから」ということになります。

私が仕事をしている上で、楽しいことと言えば、やはり数多くの素晴らしい樹木に出逢えることですね。逆にたいへんなことは、まだまだ木を知り尽くせないということ。「木が本当に何をしたいのか」ということを、こちらが全部受け止められればいいのですが、必ずしも自分が未熟で樹木のことを分かってあげることができない。たとえ、分かったとしても何もしてあげられないことの方が多いです。でも樹木と触れ合っていると、楽しみは山ほどありますよ。樹木から教えてもらうことは多いし、自分が「樹木たちに生かされている」ということにも気づかせてもらっています。

## 木の治療で全国各地を飛び回る日々

私は全国各地に樹木の診断や治療などに出掛けていて、診断に行っていないのは、香川県だけです。今まで、北海道の製薬会社の仕事や岩手県の国の天然記念物の樹木の診断、山形県など、10年近くも通っている現場もあります。今週末は熊本へ出張、先週は千葉の銚子、茨城県など、全国各地を飛び回っています。一泊二日、二泊三日の出張であったり、いろいろですが、私は樹木医という仕事だけではなくて、造園家として庭の設計コンサルタントの仕事もやっているのです。半年、1年ぐらい関わっている仕事も多いです。

樹木の治療というのは、1年で終わるといったことはありません。3年から5年の年月をかけて毎年その時期になると治療を行うといった具合です。冬の時期の治療や診断が多いので、冬になると毎週どこかに出張していますね。茨城の次は新潟、その前には長野とか・・・

私は、年間100日ぐらいをあしかがフラワーパークの園長として働き、木の診断や治療や園長業務をやっています。あと年間100日ぐらい、樹木医の仕事などで全国へ出掛

けていますね。浜松でも小さな造園会社を営んでいるので、その仕事などもありますし・・・。

## 「ターニングポイント」となった樹木との運命的な出逢い

私が今まで全国各地に行った中で、どこが印象深いかと言えば、やはり私自身の“ターニングポイント”としてあげるとしたら、足利ですかね。足利の藤の移植は運命的な出逢いだと思っています。その足利の藤の移植の仕事をする前には掛川の秋葉路にある樹齢1000年にも及ぶ樹木の移植の仕事があったんです。この仕事は私が30代の時の仕事で、それが意味自分自身を大きく変えたと言えますね。樹齢1000年の大木の移



植は、私にとって、もっとも難しい仕事でした。実は、もっとルーツを辿れば、浜松市役所の仕事なんです。というのは樹齢300年のソテツがあるのですが、浜松市役所の新館を建てた直後に、そのソテツの木が弱って、その当時の市役所管財課の課長さんが「この木を枯らすわけにはいかないから何とかできませんか?」「じゃあ何とかしましょう!」ということで、治療を行うことになったのです。

管財課長と「来年新芽がでたらお祝いしましょうね」って話をして、翌年新芽が出た時には、それは嬉しかったですね。ですから、どの木が、どの仕事が一番思い出ということではないのですが、大きな変化が足利で、ルーツ的に言うと、その前の秋葉路で、もっと前でいうと浜松市役所の仕事ですかね。そういった木が元気になっていく姿を観させてもらえるのが、私にとって大きな喜びです。

## ここ浜松の“住みやすさ”“便の良さ”は格別のもの

全国へ行って思うのは、浜松というか静岡県は「お茶が美味しい」ってあらためて思います。普段美味しいお茶をずっと飲み慣れているので、全国各地にお伺いした時に「毎日美味しい静岡のお茶を飲ませていただいているんだな」って感じます。それから気候が全国どこも厳しい。そういう意味では、ここ浜松の「住みやすさ」、「便の良さ」は格別。それから「活気」がありますよね。

先々週は山形県に仕事に行きましたが、道路が2mもの大雪に囲まれている中で、皆さん一生懸命生活をしているのが実状です。1日、2日雪を見るのは「きれいだ」と思いますが、現実に生活をしている人たちの事や除雪作業に莫大な税金を投じなければいけない

ということを見ると、浜松は温暖な気候と交通の便の良さも含めて、全ての点で恵まれていると思います。

浜松の温暖な気候は、木にとっても良いんです。静岡県は、巨樹、古木がたくさんある所で、浜松も素晴らしい樹木がたくさんありますよ。

浜松には屋久島の縄文杉よりすごい木があるんですよ。それは天竜区春野町にある春埜の大杉。過去に樹齢調査もしていて、おおむね1000年で間違いない巨木です。

私は、春埜杉の仕事にも随分関わっていて、幹回りは約12m、高さも約48mもありますから、去年は避雷針をとりつける作業をしたりしました。



## 浜松人の特長は、「すぐ心を開く」ということ

全国各地に行って感じるのは、基本的にどの地方も人柄が素晴らしいということ。九州へ行っても、山形、岩手へ行っても本当に素晴らしい人たちがたくさんいます。「浜松の人ってどんな人か？」って、やはり「人がいい」ですね。逆にいうと「おっちょこちょい」。自分自身がそうですので・・・。

やはり浜松の人は、「すぐ心を開く」というのが特長ですよ。人を受け入れるという気質があります。厳しい環境に住んでいる方の山形や岩手の人たちは、心を開くというよりも、「よく来てくれました」って歓迎をしてくれます。

私は今まで、ずっと仕事で走り続けてきましたが、「仕事そのものが楽しい」と思っています。わからないことだらけの樹木のメカニズムを知っていくというのは、自分自身の好奇心を満足させてくれるものです。今日は桜を診断しました、今日は松を診断しましたといっても、どの樹木も土が違い、根が違い、環境が違い、樹種も違うので、同じものはどれ一つとしてないのです。その事を知っていく過程は、私にとっては楽しく、まさに好奇心を満たしてくれるものですね。

それから2年前からはじめた畑仕事が、私にとって今一番の楽しみです。浜北区にある2000坪の畑で、山芋も3～4種類、サトイモも6種類、白菜、だいこん、プチヴェール、いちご、人参、だいこんなど、稲、麦以外はあらゆるものを育ててい



ます。ですから私の家の野菜の自給率はものすごいと思います。今は獲った野菜を出荷することは考えていませんが、作ったものはみんなに分けています。今年も里芋を150株つくって、東京の友人宅、25件ほどに送りました。

畑仕事は、大地の恵み、雨の恵み、太陽の恵みをいただいて、今の私の究極の喜びかもしれませぬ。忙しい中でも2時間でも時間がつくれれば、すぐ畑にとんでいくぐらい、本当に楽しんでます。時間がないところをつくってやるのが畑仕事の魅力ですかね。

## 植物には「人間性復元力」がある

私の家の畑は、野菜をつくるだけではなくて、いろいろ人生に悩み、苦しんでいる人たちが参加して、自分を取り戻すことにも活用していきたいと思っています。足利にも人生に悩んで、働かせて欲しいという人たちが訪ねてきます。不登校の子供さんであったり……。以前にも社会へでるために、何とか植物にさわらせて欲しいと言って、鬱（うつ）で親とも会話できない大学を卒業したばかりの男性が訪ねて



きました。「人とはコミュニケーションが取れないけれども、植物なら取れる」ということで、働かせて欲しいと……。植物と関わっていく中で全く人とコミュニケーションできなかった不登校の子などが、生き生きと仕事ができるようになる。そして笑顔で仕事をしている。植えた木に水を与えたり、手入れをして、それをお客さまが「わあー、きれい」と喜んでくれる。そういった植物との体験を通じて、自分自身を取り戻していくのです。植物には、こうした「人間性復元力」があるんですね。

今の社会は、「人」、「もの」、「金」いろんな情報に埋もれて、本当に自分自身に悩み苦しんでいる人たちがたくさんいます。そういう人たちが、足利のフラワーパークの実体験を通して、一人でも自分を取り戻すことができたらいいなと考えています。

浜松のフラワーパークでもそういうことができたらと思っていますが、現実には厳しい状況です。行政では限界があると感じて、まずは自分で土地を求めて始めてみよう……。自分が土地を用意して、組織をつくっても、自分が関われなかったら駄目なんです。ですから、自分が関わって「畑をやってみよう！」と始めた結果、「はまってしまった」というわけです。この活動を通して、発達障がいの子を持つお母さんと知り合いになり、「子供を預かって欲しい」、「私がいる時ならどうぞ」ということで、今一人の子が私の畑仕事を手伝っています。

私自身、畑で癒されているというか、遊んでもらっているという感じです。主人は造園業で、主人のところに嫁いだ縁で、私自身がこの世界に導いてもらったので、主人はある意味師匠だと思っています。子供2人も主人の会社をやっていて、いろんな植物の話をする機会があって、息子の相談にのったりだとか、常に親子でコミュニケーションがあります。親子、夫婦で植物の会話ができるというのは、本当に幸せなことですね。